

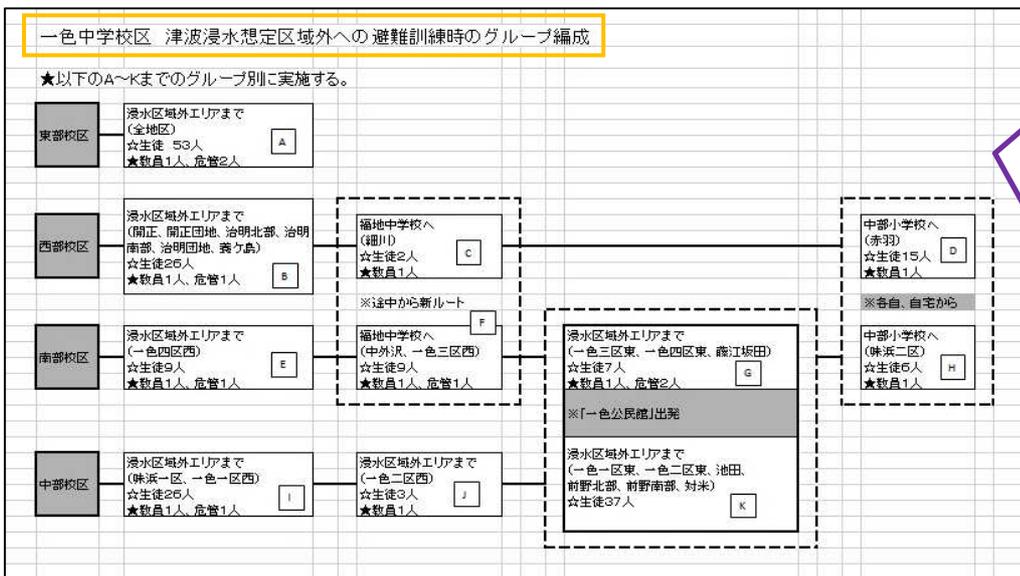
◇避難訓練当日【10月16日（火）実施】

一色中学校の1年生約190人を対象に、津波浸水想定区域外への避難訓練を実施した。生徒たちは、町内会ごとの11グループに分かれ、それぞれが目指すべき津波浸水想定区域外までの道のりを歩いた。実際の避難経路については、歩道がない道避けるなど（交通量の多い交差点などには交通指導員に立哨をお願いした）、市が示している経路とは若干異なるが、当日は引率者より市の示す本来の避難経路を確認しながら行った。また、訓練を実施するにあたって、各チェックポイントで避難時間を計測することや、避難経路における危険箇所のチェックなども行うようにした。

訓練当日は、津波浸水想定区域外まで最長のグループで6.5kmの道のりを歩いたが、どのグループもほぼ予定通りの時間で避難を完了することができた。訓練時に各自が持参していた手荷物が重く、それが原因で疲れを訴える生徒もいたが、発災後は、あらかじめ準備しておいた「非常用持ち出し袋」等を持参することを踏まえ、実践に近い形（よりリアルな形）で訓練を行うことができた。

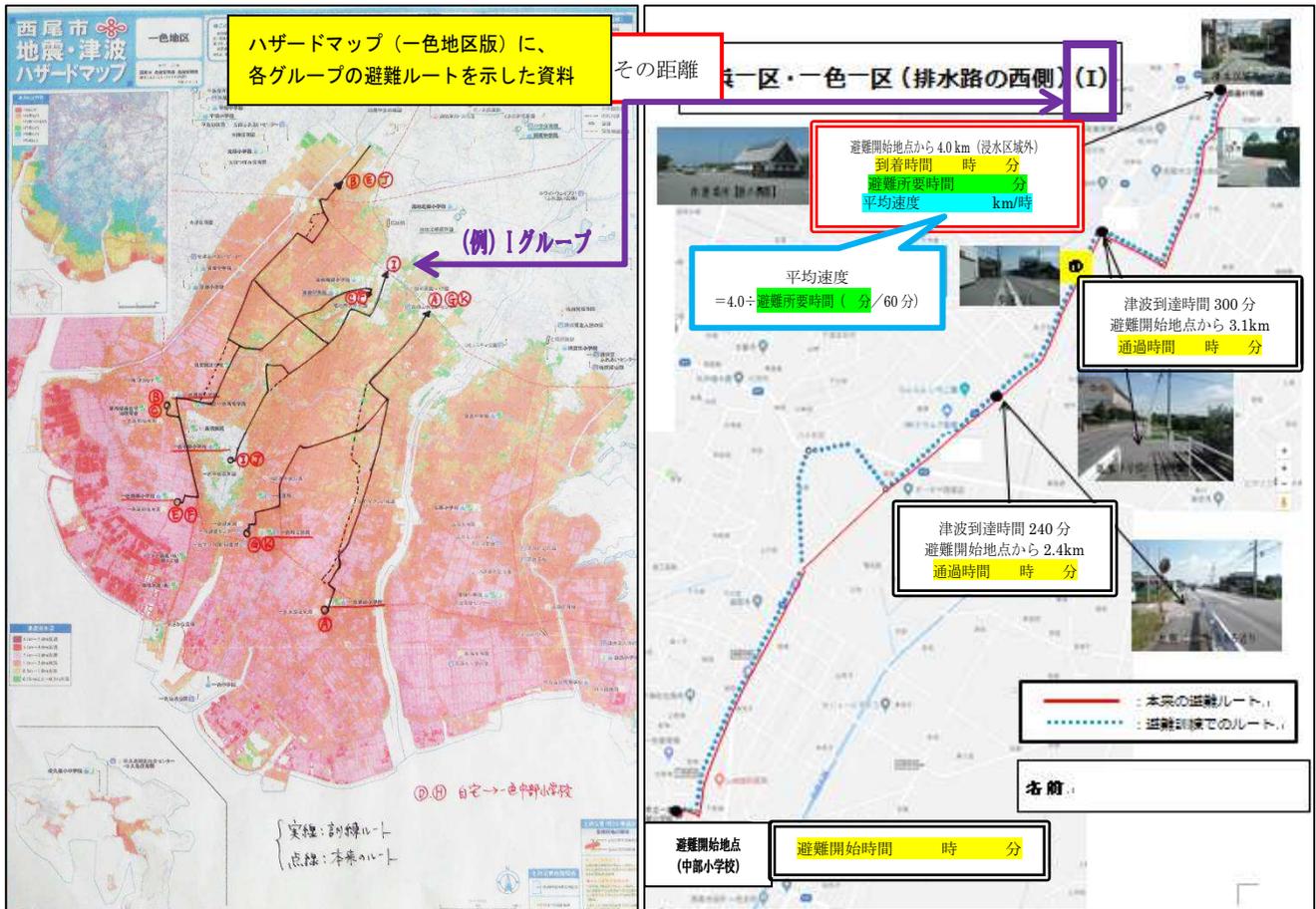
一方で、発災時には津波浸水想定区域外からさらに町内会ごとに指定された避難所まで行くことが必要となる。そのことを踏まえ、今回の訓練では歩いた道のりを往復することにしたが、「津波浸水想定区域外までの距離」の2倍（往復分）を歩いたため、予想以上に生徒たちに疲労感が残ってしまったことは課題でもあった。そのため、命を守るためにも、「まずは津波浸水想定区域外までの避難が重要である」ことを、改めて周知する必要があると感じた。

訓練を通して、生徒たちには津波が発生した時の避難行動の一つの方法を身に付けるとともに、いざという時には、率先避難者となって地域の方々を先導する姿を期待している。また、「非常用持ち出し袋」の中身も含め、防災について改めて家族で話し合う機会にしてもらいたい。



・各町内会を A～K の 11 グループに編成した。
 ・避難開始地点を 4 小学校と一色町公民館の計 5 か所に設定したことで、どの町内会も本来の避難経路に近い形で訓練を実施することができた。
 ・D、H グループの避難先は一色中部小学校であるため、自宅から小学校までの避難とした。

一色中学校区 避難訓練 タイムスケジュール									
A(生徒53人) 教員1・危管2	B(生徒26人) 教員1・危管1	C(生徒2人) 教員1	D(生徒15人) 教員1	E(生徒9人) 教員1・危管1	F(生徒9人) 教員1・危管1	H(生徒6人) 教員1	I(生徒26人) 教員1・危管1	J(生徒3人) 教員1	G・K(生徒44人) 教員1・危管2
一色中学校発 (12:40)	一色中学校発 (12:35)	一色中学校発 (12:35)	一色中学校発 (12:55) ↓ 自宅へ	一色中学校発 (12:30)	一色中学校発 (12:30)	一色中学校発 (12:55) ↓ 自宅へ	一色中学校発 (12:45)	一色中学校発 (12:30)	一色中学校発 (12:50)
一色東部小発 (13:10)	一色西部小発 (13:10)	一色西部小発 (13:10)	↓ 徒歩で中部小へ ※教員チェック	一色南部小発 (13:00)	一色南部小発 (13:00)	↓ 徒歩で中部小へ ※教員チェック	一色中部小発 (13:20)	一色中部小発 (13:05)	一色町公民館発 (13:15)
4.8km	5.3km	3.7km		6.5km	4.9km		4.0km	6.1km	4.7km
↓ 浸水区域外 (14:25)	↓ 浸水区域外 【村井鉄工】 (14:30)	↓ 浸水区域外 【福地中学校】 (14:05)		↓ 浸水区域外 【村井鉄工】 (14:40)	↓ 浸水区域外 【福地中学校】 (14:15)		↓ 浸水区域外 (14:20)	↓ 浸水区域外 【村井鉄工】 (14:40)	↓ 浸水区域外 (14:25)
↓ 0.4km	※休憩	※休憩		※休憩	※休憩		0.5km	※休憩	0.4km
↓ 憩の農園着 (14:30)	↓ 村井鉄工発 (14:45)	↓ 福地中学校発 (14:20)		↓ 村井鉄工発 (14:55)	↓ 福地中学校発 (14:30)		↓ 憩の農園着 (14:30)	↓ 村井鉄工発 (14:55)	↓ 憩の農園着 (14:30)
※休憩	↓ 5.3km	↓ 3.7km		↓ 6.5km	↓ 4.9km		※休憩	↓ 6.1km	※休憩
憩の農園発 (14:45)	↓ 一色西部小着 (15:05)	↓ 一色西部小着 (15:15)		↓ 一色南部小着 (15:35)	↓ 一色南部小着 (15:45)		憩の農園発 (14:45)	↓ 一色中部小着 (15:30)	憩の農園発 (14:45)
↓ 5.2km	約10.6km	約7.4km		約13.0km	約9.8km		↓ 4.5km	約12.2km	↓ 5.1km
↓ 一色東部小着 (15:05)	(往復)	(往復)		(往復)	(往復)		↓ 一色中部小着 (15:55)	(往復)	↓ 一色町公民館着 (16:00)
約10.4km (往復)							約9.0km (往復)		約10.2km (往復)



＜訓練当日に生徒一人ひとりが持参した地図【Iグループ版】＞

※他のグループもそれぞれ作成

- ・生徒たちは、出発時、各チェックポイント通過時、津波浸水想定区域外到達時の時間をそれぞれ記載していき、最終的に自分の平均避難速度を算出するようにした。なお、それぞれの地点までの実際の距離と、その地点での津波到達予想時間を記載しておいた。⇒事後学習で活用
- ・チェックポイントや津波浸水想定区域外の場所が分かるように、あらかじめそれらの地点の写真を撮って掲載しておいた。
- ・生徒たちには、避難しながら危険箇所等をチェックし、地図に書き込んでいくように指示した。



避難訓練の様子（予想以上に手荷物が重かった…）



本来の避難経路を確認しながら実施



計測した避難時間や危険箇所などを記入



浸水区域外に到着！

【生徒の振り返り】

- 津波浸水想定区域外までは遠くて疲れましたが、でも、津波が来ると分かったら、若くて元気な私たちがそこまで歩いていき、お年寄りや体が不自由な方などに近い避難場所を譲ってあげたいと思いました。家族にも伝えていきたいです。
- 実際に歩いてみると、細い道や古い建物、ブロック塀や段差など「危険な所」がいくつかありました。もし避難することになったら注意したいし、周りの人にも呼びかけられるようにしたいです。
- 実際に地震が起きた時は、歩いていく道がふさがれてしまうこともあると思います。その時は、大人の言うことを聞いたり、他に逃げられる方法を考えたりしなければならぬと思いました。
- 肩掛けのバッグだと歩きづらく疲れやすかったので、非常用持ち出し袋はリュックサックにして、中身は最低限必要なものだけにしておいた方が早く移動できると思いました。
- 小さい子やお年寄りなどにとっては、長距離の移動は難しいのではないかと心配になりました。
- 今回の訓練はとてもよい経験となりました。もしもの時の避難経路を覚えていれば、周囲に教えることができます。さらに拡散すれば、たくさんの命を救うこともできます。そう考えると、この訓練はとても意味のあるものであり、この町の人々を救うことにつながると思いました。



**避難訓練の様子は、NHKやKATCHで放映され、
中日新聞(西三河版)などにも掲載されました！**

